

令和年6度 特別養護老人ホーム 事業報告 (期間:令和 6 年 4 月 ~ 令和 7 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	<ul style="list-style-type: none"> 災害における福祉避難所としての備蓄食の設置 地域交流や地域への協力、広報活動の充実を図る 近隣の学校の実習生の受け入れをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・業者から、備蓄食品のサンプルを取り寄せ、10月の食事委員会で介護職員等に向けた試食会を実施する ・野瀬自治会の地域清掃は実施日より事前に実施する ・キャラバンメントとして、認知症講習に参加する ・看護学生、高校生の実習生の受け入れをする ・トライアル(中学生)の受け入れをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加回数 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度内 ・年3回 ・年1回 ・年間実習の都度 	<ul style="list-style-type: none"> ・50% ・隨時 ・年1回 ・達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員に向けた試食会は実施できたが、年度内に備蓄食の購入については達成する事ができなかつたので令和7年度上半期には、備蓄食の献立を作成し、BCP策定も併せて設置に向けて進めていく ・地域の清掃を2回(6月・10月)に実施した。(事前実施) ・キャラバンメントとして地域講座に参加した(認知症についての説明、特養の役割、高齢者に対しての接し方等) ・龍野北高校(1名)、看護学生(7班)、中学生(トライアル)4名の実習を受け入れた
収支の視点	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率の維持 口腔ケア加算の習得 LIFE(科学的推進体制加算)加算の取得 ADL維持体制加算の取得 	<ul style="list-style-type: none"> ・空床期間を減少させるために、迅速に看護師等と次期入所候補をピックアップをする、また病院や各事業所との連携を図り空室が出たら連絡をする ・SSも同様に各事業所や病院との連携を図り、空室日等を伝え、希望があればスムーズに案内をする ・3ヶ月ごとの評価、アセスメントの実施をシートを作成した ・歯科医師、歯科衛生士と連携し実施する ・対象月から伝送までに様式「科学的介護推進に対する評価」作成から最終チェック ・厚労省からのフィードバック票の取得、確認、内容の検討 ・3ヶ月ごとに入居者全員のバーセルインデックス(食事、移乗、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便コントロール、排尿コントロールの日常生活動作の能力)の測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・待養・SSの稼働率の向上 ・月2回以上 ・取得率 ・ADL利得 I 	<ul style="list-style-type: none"> ・SS:99% ・95% ・95% ・利得率(I) 	<ul style="list-style-type: none"> ・待養:83% ・SS:128% ・100%(希望者のみ) ・100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・入所申込があり次第状態を把握し、面接を行っていたが、感染症等で行えず入所が延びることが多々あり入所までに時間がかかった ・SSIに関しては空室が出たらすぐに各事業所等に連絡をし、空室の利用につなげることができた ・歯科衛生士によるケアマネジメントのもと、利用者一人ひとり評価しライフに入力することができた ・口腔ケアを希望しない利用者・看取りの方に対してもできる限り(工夫しながら)ケアの実施ができた ・「科学的推進体制加算」は算定の規定通り年4回利用者全員の情報提供を実施し年間に所得できる加算を取得できた ・令和5年6月から令和6年5までのバーセルインデックス数値を伝送した結果、ADL利得率が0.6となり加算算定ができなかった
利用者の視点	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の居室への見守りカメラの設置の検討 行事、イベントなどの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の尊厳等設置には十分に検討し、設置に向けての検討を進めていく ・可能範囲で外出をしたり、施設内で出来る季節にちなんだ行事、イベントを行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・随时 ・季節ごと 	<ul style="list-style-type: none"> ・随时 ・年4回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・8台 ・達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・居室内に設置する場合、家族と話し合い、承諾を得て、カメラを設置したユニット新棟1台、笑笑5台、なごみ2台を設置 ・可能な範囲で外出をしたり、施設内で出来る季節にちなんだ行事やイベントを行った。(花見、七夕、スイカ割り、クリスマス会、餅つき、忘年会、節分等) ・SSの方も、行事に参加できるように事前に各事業所や家族に知らせ行事に合わせて利用者を募った
業務プロセスの視点	<ul style="list-style-type: none"> 啞痰吸引研修終了者の充実を図る 施設の備品の購入と入れ替え 休日日数の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・啞痰吸引研修を年間1~2名受講する ・継続劣化により故障、不具合が増えてきている為、古くなった備品の買い替えを進めていく ・チーフリーダー、各ユニットリーダー等でシフト調整し有給休暇を取得する 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講人数 ・100% ・有給休暇5日 	<ul style="list-style-type: none"> ・2名 ・100% ・達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・未達成 ・ほぼ達成 ・達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症等の発生によるユニットの閉鎖等により人員不足で外部での研修に参加できなかつた ・施設内での研修では、利用者で啞痰吸引が必要な方がいなく実施できなかつた ・ベット(20台)の購入に伴い、備品等の購入や利用者の介護の重度化によりセンサーマット等需要が高まり、他の備品の購入ができなかつた ・介護職員の希望日には必ず取得できるように調整したけれど完全にかなうことはできなかつたが有給休暇の5日間は全員取得できた
学習と成長の視点	<ul style="list-style-type: none"> サービスの品質管理・不適切なケアの発生を未然に防ぐ助言等をする 介護職員のケアプランのサービス内容への理解と利用者へのケアへの知識の向上 内部研修の充実 実務者研修への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議で、ケアプランを基に、利用者の状態やケア等について申し合わせをし検討する ・利用者のケアを実施するユニットと確認し、ユニット会議等で不適切ケアなど未然に防げるよう助言を行う ・内部研修の企画をし、スケジュール管理を実施する ・実務者研修(通信コース)のパンフレットの配布や個別的な呼びかけをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者数 ・法令研修 ・参加人数 	<ul style="list-style-type: none"> ・100% ・年度内 ・1~2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・100% ・100% ・2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議及びカンファレンスについては、利用者全員分できている。また担当者会議の欠席者については照会という形で所見を提出し検討できた ・毎月利用者の個別のケア実施表を作成し、ユニット職員が実施結果を記入する。それを基にケアが適切であるか確認をし見直しを行うことにより個別の対応ができた ・年間研修計画書を作成し、各研修項目について担当者を置き実施した ・外部から講師を招き、介護技術の講習会を実施できた ・チーフリーダーや各ユニットリーダー等が介護職員に研修の呼びかけを行い個別的に資格の重要性を説明し、受講に繋げられた

令和6年度 グループホーム野瀬 事業報告

(期間:令和 6年 4月 ~ 令和 7年 3月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事、地域活動への参加 ・自然災害(台風や豪雨、地震など)時には安全性を第一に地域の方と協力する 	<p>野瀬地区の行事、地域活動への参加</p> <p>運営推進会議の開催</p>	<p>行事参加回数</p> <p>会議での確認情報の公開</p>	<p>全行事参加</p> <p>達成</p>	<p>一部達成</p> <p>達成</p>	<p>納涼祭やどんどなどの地域活動への参加はできなかつたが、8月と12月のふれあい屋食会、草刈りには参加出来た。</p> <p>運営推進会議で、災害についての話をする事ができた。</p>
収支の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒、急変に備えられる体制を整え、入院などでの空床を避ける。 ・稼働率のコントロール 	<p>コロナウイルスの感染予防、転倒への注意</p> <p>特養生活相談員との情報交換</p>	<p>稼働率</p> <p>適宜</p>	<p>95%</p> <p>適宜</p>	<p>92.5%</p> <p>達成</p>	<p>令和6年度は、感染症に罹患する事なく過ごして頂く事ができた。また、入院日数の統計結果は69日間で過去3年間では最も少ない結果であった。内、骨折による入院日数は6日間と前年度より少ない日数ではあった。</p> <p>稼働率は、上半期は目標値以上を維持出来ていたが、下半期で特養入所を進めた後、空床を埋める事ができず目標値を下回る結果となってしまった。</p> <p>幹部会で適宜他事業所と連絡を行う事ができた。特に特養生活相談員とは密に情報共有をし、グループホームから特養入居になる際の日程調整等を行う事ができた。</p>
利用者の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防。家族への情報提供と、面会の体制整備、安心して預けられる情報開示を行う ・行事や棲家としての穏やかな生活の提供 	<p>職員、利用者の感染防止意識</p> <p>面会の方法、広報誌の活用</p> <p>年間行事計画の作成。外出の機会を増やす。</p>	<p>利用者、家族の声</p> <p>利用者の声</p>	<p>クラスターを発生させない</p> <p>毎月の広報</p> <p>利用者の満足度</p>	<p>達成</p> <p>達成</p> <p>一部達成</p>	<p>コロナウイルス等感染症に罹患する事なく過ごして頂けた。面会方法については、直接面会をして頂き、家族様からの面会に関する相談には、都度要望を聞き、可能な範囲で柔軟に対応できた。</p> <p>年間行事計画に沿って行事を実施する事が出来た。外出の機会は、一定数増やす事はできたが、気候の良い時季が短く十分に増やす事は困難であった。</p>
業務プロセスの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット間の連携 ・調理工程の負担軽減 	<p>限られた人員でも、双方のユニットをカバーできる体制づくり。</p> <p>冷凍カット野菜を購入、使用する事で調理工程の削減。使用量を調節できる為、フードロスや無駄の削減にも繋がる。</p>	<p>利用者、職員の声</p> <p>職員の声</p>		<p>一部達成</p> <p>達成</p>	<p>限られた人員の中でも、ユニット間で声を掛け合いながら業務を行う事ができていた。</p> <p>積極的に導入する事で調理工程の削減や、使用量の調整を行う事ができた。</p>
学習と成長の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・知識、技術の向上 ・虐待の防止 	<p>法定研修を計画的にユニット会議で実施できるよう計画。</p> <p>管理者、計画作成担当者、リーダー等の役職者で特に注意できるように会議などで必ず議題とする。</p>			<p>達成</p> <p>達成</p>	<p>予定通りとはいかなかつたが随時研修を行う事ができた。</p> <p>ユニット会議内で都度虐待や身体拘束について伝える事はできた。</p>

令和6年度 グループホームなばの 事業報告 (期間:令和 6 年 4 月 ~ 令和 7 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	地域との交流の機会を持つ オレンジカフェを開催する	地域の行事「なばのふれ愛」「とんど」などに積極的に参加する。	地域住民	数回	達成	地域の行事、なばのふれ愛、とんどなどにはマスクをして積極的に参加できた。
		その他の行事の把握を推進会議で地区代表の方に尋ねる。 地域の保育所、小学校との交流を持つ。 年間4回開催(4月、6月、8月、10月)	地域の学校施設、保育所 参加人数	年1回以上 1回5名	出来ていない 出来ていない	今年度も出来ていない。コロナ以降学校からも依頼はこなくなっている。 オレンジカフェは開催できていない。コロナが5類に移行するも家族も玄関での面会をしている状態。今後いつ開催できるかは分からない。
収支の視点	稼働率の安定を図る 待機者の確保 経費削減を図る	体操、散歩を通じて筋力低下の防止と転倒の予防をする。 口腔ケア、嚥下体操を通じて肺炎を予防 休調管理の徹底	稼働率	95%	85%	稼働率は目標値には及ばなかった。体操や散歩はしても転倒して入院、急な病気もあり空床が出来た。入所申し込みはあったが退所の人数の方が上回り空所を埋められなかった。口腔ケア、嚥下体操は効果があったが稼働率の安定には繋がらなかった。
		GH入所申し込み者の追跡調査をする。 6ヶ月毎の光熱費を確認し削減に努める。	回数 待機者人数 光熱費	毎食前 年間新しく5名 前年比	継続して行えた 達成 達成	新規申し込み者はいるも、待機期間は短く入居された。随時病院からの依頼は検討の上受けている状態。安定しない状態が続いている。空床が出来た時、入院者が出ては、人員配置を少なくて対応した。 1日の内の洗濯回数を少なくし、乾燥機の使用は出来るだけ控え、エアコンを利用して乾燥させ、光熱費の削減に努めた。
		買い物は安く買える店で購入し、工夫する。	食材料費	前年比	達成	食事のメニューも工夫し、安く買える店で購入し、無駄な支出を抑えた。
利用者の視点	利用者のADL、QOLの維持向上 家族へ詳しい利用者状況を伝える 運営推進会議への家族の出席の継続 運営推進会議への利用者の出席	気分転換と下肢筋力の低下防止を図る。 ドライブ、外出の機会を設ける。 調理の補助、洗い物、洗濯物干しを積極的に行っていただく。	実施回数 実施回数	週2回 毎日	達成 達成	感染防止のため、人込みには行かないようにするも、マスク等をして積極的に外出が出来た。ドライブに出かける回数も増やし、人がいない場所では、車から降りたり、散歩等に出かけることができた。施設内での行事も積極的に行い、脳トレや塗り絵などを通して、気分転換や脳の活性化を図ることができた。家事仕事(掃除、食器拭き等)をすることで、役割を持っての生活も継続出来た。
		ライン等を利用して画像と共に広報では伝え切れない事を伝える。	実施回数	随時	達成	画像を送ることで家族に状況を詳しく伝えることができた。
		案内状の送付と口頭にて依頼する。	出席回数	隔月1回	実施出来ていない	今年度は家族に出席の打診ができていない。
		短時間でも利用者が参加出来るようにする。	出席回数	隔月1回	実施出来ていない	利用者の出席は、感染防止のため、実施できていない。
業務プロセスの視点	緊急時の対応の習得 有給休暇を確実に取得する。 感染症対策の徹底 各マニュアルの見直しと再確認 感染症マニュアルの見直し。新型コロナ感染症のクラスター発生マニュアルを作成。BCP策定	緊急時対応についての研修を実施する。 救急要請時の対応方法の確認。 有休取得計画表、管理表を作成する。 消毒、換気、マスク、手洗い、検温等の徹底。	実施回数 有休取得日数 実施回数	年1回 年間5日以上取得 毎日	達成 達成 達成	消防署から訓練用人形とトレーニング用AEDを借りてきて、資格のあるスタッフから指導を受けた。 人員不足があるも有休取得できた。 感染対策の実施はできたが、令和6年4月に職員からコロナが発生し利用者1名に感染した。
		各委員によるマニュアルの見直しと確認。	実施回数	年間1回	達成	各委員によるマニュアルの見直しと確認、他スタッフへの周知ができた。
		対応マニュアルを年1回見直し、感染症対策を徹底する。	実施回数	年間1回	達成	BCPは策定できた。マニュアルの見直しも行い、感染症対策は出来ている。
人材育成の視点	認知症についての理解とケアレベルの向上	認知症に関する研修を行う。	実施回数	年2回	達成	定期的に実施出来ている。
	GHの法定研修を確実に行う	法定研修の年間研修計画を立てる。 介護職員主体で研修を行う。	実施回数	毎月	達成	法定研修は全て行い資料での回覧研修も随時行った。 介護職主体の内部研修、勉強会も行った。
	リーダー候補の育成	認知症実践者研修への参加。 他研修への参加。	実施回数	年1回	達成	今年度は1名参加した。
	資格取得	無理のない範囲で勤め、協力していく。	実施回数	年1回	達成	1名認知症ケア専門士の1次試験を受けた。

令和 6年度デイサービスセンター 事業報告

(期間:令和 6年 4月～令和 7年 3月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のサロンに参加する。 ・災害時について地域の方と情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンで体操やレクの提供で地域の交流を深める。 ・認知症予防、健康維持に必要な事を話し合う。 ・災害時の必要な事を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数 実施回数 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・野瀬地区のふれあい昼食会に参加した。6月はゲームレクリエーション提供、10月は漢字合わせや言葉作りなど脳トレカードを提供、2月は認知症予防について等を行い、食前体操も行った。2月はケアマネも同行しこすもすの受付窓口との説明を行った。 ・10月運営推進会議の時に、災害時について話し合い、災害時の行動、早めの避難、特養が避難場所となっている事を伝えた。野瀬地区では井戸があり、飲料用ではないがトイレ用や洗浄用には使用できるとのことだった。津波の被害に合いそうなのは、沿岸部のみで土砂災害等の危険区域にはなっていないので、避難意識は少ない様子だった。
収支の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率の維持。 ・人件費の削減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の稼働状況の把握、キャンセル対応休みの振替を促す。 ・ケアマネに活動報告やイベント案内を行い、新規利用者の紹介、利用追加を促す。 ・利用者数が25名より下回る時又は入浴者数が少ない時は人員配置を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率 利用者数 	<ul style="list-style-type: none"> 一般型 78% 認知型 62% 25名/日 	<ul style="list-style-type: none"> 一般型 76.3% 認知型 54.4% 25名/日 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼があった時はすぐに対応したが、新規は週1、2回からの利用開始やすぐに入居となるケースが多くあった。利用の定着が難しく、稼働を上げ事ができなかった。介護度や持病の関係で他施設への入居が多くあった。 ・新規利用者受け入れ数:44名(内継続者36名) ・解約者 43名(特養2名、GH 3名、入院7名、他施設16名、本人希望8名、ご逝去7名) ・入居率 11%(昨年 24%) ・ボランティア様のイベント時には追加利用を促した。 ・利用者数や入浴者数をみて職員の配置を調整し、有休消化とした。 ・機能訓練指導員(看護師)を在介の業務と兼務し、在介の収入を得ることができた。
利用者の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、元気になる場所と認識していただく。 ・家族様に身体的状況、認知症の症状等報告を行う。 ・食の楽しみ、食事イベントを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操やレクリエーション、イベントを提供し、活動的に過ごしていただく。 ・利用時の様子観察を行い、変化に気づき早期発見、悪化防止に努め、休みや入院で稼働が下がらない様にする。 ・月1回イベント食を予告し利用の追加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 人数 人数 人数 	<ul style="list-style-type: none"> 25人/日 30人 20人 	<ul style="list-style-type: none"> 随時 随時 随時 	<ul style="list-style-type: none"> ・月担当の職員がレク、壁画、行事等を考え、充実感と楽しみを持って過ごしていただけるよう提供了した。その様子をこすもす新聞やSNSにあげ、利用の振り返りや家族様にも様子を伝えることができた。個々の特技を生かせるよう、手芸や塗り絵等の個別のレクを提供し、展示し活動意欲につなげた。 ・患部の写真を家族様やケアマネに渡して早期の受診を伝えた事により悪化防止に繋がった。 ・調理員が月担当でイベントを提案し、お弁当や日頃とは違った献立をたてたり、利用者参加型(餃子包みやうどん作り等)を行った。食の楽しみのアピールが行えた。
業務プロセスの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズを把握し気持ちや思いに寄り添う。 ・感染予防、防災、虐待の研修会を行い、専門性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の利用目的、心身状況、特技を把握し、ケア方法を話し合う。 ・外部研修の受講、研修・勉強会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人数 回数 	<ul style="list-style-type: none"> 30名 年3回 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回 年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様のアセスメントや会話の中から、特技や、やってみたい事など汲み取り、披露する機会を設けた。休まず利用出来るよう、次回への意欲に繋げた。 ・防災訓練では災害時の確認でグループLINEを使って安否確認を行った。停電時のインバーターを使った電源確保訓練も行った。 ・感染予防では感染が発症しやすい夏や冬の前に感染予防の研修会を行った。
学習と成長の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性、知識を高めるよう、外部研修を受講する。 ・個人面談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症研修、いろいろな疾患について等、研修を受講する。 ・個人面談を行い、業務、職場環境の意見を個々に聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 回数 回数 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー、在介合同研修で口腔ケアについてを外部講師を招いて受講した。外部研修で認知症、パーキンソン病についてを受講し、職員会議で内部研修を行った。 ・職場環境の意見や今後の業務の希望などを伺った。現場の状況を把握し、環境、効率性がよくなるように話し合った。 ・勤務時間を延ばしたいパート職員にはヘルパー業務を兼務、常勤職員には来年度特養応援勤務の説明を行った。

令和6年度 ヘルパーステーション事業報告 (期間:令和 6 年 4 月 ~ 令和 7 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	・市内クリーン作戦	・居宅と合同で年2回のゴミ拾い実施	実施回数	年2回	年2回	・4月10日、10月15日 マックスバリュー、ペーロン城から関西電力辺りまでのゴミ拾い実施 ・赤色のこすもす俱楽部の名前入りのジャンバー着用し、地域の方の目に留まるように実施
収支の視点	・訪問時間の増加を図る ・ヘルパーの退職を防ぐ	・各居宅に営業活動 ・登録ヘルパーの高齢化(平均年齢66.1歳)に伴い、病気等による長期休暇や退職を防ぐよう体調等を考慮しシフトの調整を行う70代6名 ・年齢の若いヘルパーの退職を防ぐために、安定した仕事量を提供できるようにする	訪問時間 ヘルパー人数	毎月430時間 ヘルパー9名	月平均374時間 登録ヘルパー9名	・新規契約20件 終了者16件 ・平均介護度 4月1.02 → 3月1.1 ・登録ヘルパー9名。退職はなし。9名中70代が4名、60代3名と高齢化に歯止めがかかるない。体調不良を訴えるヘルパーもいる ・毎月の実績配布の際に居宅のケアマネに営業をかけている。また、新規利用者は6割が支援。年度内に終了するなど、利用の定着に課題あり。また重度の利用者は施設入所や逝去で終了が続いている ・2月よりティの職員が水曜日と木曜日に勤務してくれている
利用者の視点	・住み慣れた自宅や地域で安心した生活が送れるように支援する	・各事業所や地域と連携を図り、利用者が自宅で過ごしやすい環境を整える ・ラインやメールなどを利用し、ヘルパー間の情報共有を図る ・ヘルパーの訪問時に利用者の体調や心の変化を察知でき、気づけるようミーティングで研修を行い、利用者の細かい変化に対応できるようにする ・ヘルパーの孤立を防ぎ、意見交換ができるように努め不安を共有し解決できるように努める	訪問時間	毎月430時間	月平均374時間	・利用者の日々の健康状態と精神状態を訪問時に把握し担当ヘルパー全員で共有できるよう実施した ・ヘルパー間でlineグループを使い情報の共有に努めた ・利用者の状態をこまめにケアマネに報告を実施 ・担当者会議に参加し、他の事業者や家族やケアマネに会い利用者の情報を共有することができた
業務プロセスの視点	・感染予防 ・訪問忘れゼロ	・1年に最低1回は感染予防の研修を開催する ・マスク、手袋、消毒液など感染対策の備品を確保する ・スケジュールの徹底管理	実施回数 回数	年1回 0回	年2回 1回	・感染症対策に関しミーティングとティと合同で研修会を実施 ・訪問メールのチェックを徹底したが訪問忘れ1件
学習と成長の視点	・一人での訪問となるため、ヘルパーの孤立を防ぎ、安定して長く勤務できるように支援する ・ヘルパー研修会の充実を図り、専門性と実践力の向上を図る ・年休取得	・毎月のヘルパーミーティングの際、情報共有し、不安なく訪問できるように支援する ・サボによる状態確認等で利用者の状態を把握し、ヘルパーと共有する ・「質の高いサービス」を目標にヘルパーのスキルアップのために研修の充実を図る ・外部研修への参加(オンライン研修も含む) ・有給休暇の取得を図る	ヘルパー人数 実施回数 年休取得回数	ヘルパー9名 年間11回 常勤者5日以上	ヘルパー9名 年間11回 5日以上	・ラインでの情報共有を頻回に行うことにより、利用者の状況を共有することができた ・BCP(業務継続計画)や虐待などミーティングを開催し、利用者の情報を共有した ・登録ヘルパー、常勤者年間5日以上取得することができた

令和6年度 居宅介護支援事業所 事業報告 (期間:令和 6年 4月～令和 7年 3月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	市内クリーン作戦 サロンや地域主催の行事に参加する。	市内交通量の多い歩道のゴミ拾い サロンや地域行事へ参加し、顔の見える関係づくりを継続	実施回数	年2回	年2回(4・10月)	4/10.10/15に実施(ペーロン城付近…ポート公園前～工和橋北の間)クリーン作戦を行う際はこすもすジャンバーを着用。地域貢献を通じて、こすもす俱楽部の活動について認知して頂いている。
	主任介護支援専門員の業務を行う	ケアマネの育成・制度の整備の提案や助言・研修企画	実施回数	年4回程度	1回参加	認知症サポート養成講座の参加依頼もなし。2/27野瀬の食事会に参加。参加されている方に認知症予防について話をする。
			活動回数	毎月	年10回	主任ケアマネ委員会に参加し、ケアマネの育成・研修企画に関わった。事業所内でも困難事例など会議を行い、解決に向けて意見を出し合った。
収支の視点	担当件数の増加	稼働率の向上を目指し、一人あたり月38件(24件)を目標とする(依頼のあった新規利用者の担当は、職員の状況確認を行い、事情がない限りは受けしていく)	稼働率	毎月	未達成	担当件数については、令和6年4月と令和7年3月と比べると、さほど変わりがない。今年度は、新規依頼が少なかった。今年度は介護予防支援が直接契約になった事・特定事業所加算Ⅲを算定できるようになり収入の増加に繋がっている。
	算定可能な加算を漏れなく請求する。	給付管理業務の際に、取りこぼしのないよう算定する	加算算定	毎月	毎月算定	入退院時に情報提供を実施。退院前カンファレンスへ出席した場合に算定可能なため、給付管理業務時にチェックしている。
利用者・家族の視点	ライフステージに応じたサービスの提案 法人内のサービスを知ってもらう。	・給付管理、実績内容の確認 ・集中減算の確認(2月・8月) 毎月のモニタリング訪問時に法人内サービスを紹介(チラシや新聞等ある場合は持参し紹介する)	毎月の利用状況	前月比	適宜調整出来ている	毎月10日締めで給付管理状況をまとめ、自法人サービスの利用状況を確認している。 半年に1回(3月～8月、9月～2月)集中減算の確認と書類保管
			毎月1回	毎月1回	毎月1回	毎月の訪問時、必要に応じて法人内サービスを随時紹介・説明を行った。特養・グループホームの部屋の空き状況もお伝えしている。
業務プロセスの視点	ケアマネジメント課題の見直し	コンプライアンスの視点に沿って利用者ごとの必要書類や記録の見直しを実施	実施回数	年1回以上	実施	各担当ごとに必要な書類・記録の見直しを都度実施している。
	リスクマネジメント	個人情報保護について研修と事例の検討などにより認識を深め事故防止に取り組む。事故・苦情が発生した際は「報告書」を作成し、事業所内会議において事故・苦情・内容を周知し全員で共有し再発防止に取り組む	実施回数	年1回(応需)	研修実施	個人情報保護についての研修を実施。事故・苦情の発生はなし。
	災害対策	大規模災害の発生時の対応として、「安否確認優先順位名簿」を作成。事業所内で情報を共有し、災害時における利用者の早急な安否確認に備える	実施回数	年1回	研修・机上訓練実施	居宅にてBCP研修・机上訓練を実施(各2回)優先順位の見直しを行っている。
	兵庫県介護支援専門員協会 相生支部役員会への参加	月1回開催される役員会に出席し(参考・リモート)、定例会での協議内容や研修内容を検討する。最新の介護保険等についての動向を聴取する。	実施回数	毎月1回	毎月参加	毎月役員会に参加している。地域・医療・研修の最新情報を知り、事業所内で情報を共有している。
人材育成の視点	個人の資質向上	研修計画に基づき、必要な研修の参加	研修計画に基づく	研修計画に基づく	平均 月1～2回参加	研修計画に基づきケアマネ業務に必要な研修に随時参加。ケアマネ業務をおこなうにあたり、幅広い知識が必要であるため、Webで行われるいろいろな分野の研修に参加し、利用者様にとって最適なケアマネジメントが提供できるよう努めている。また、全員参加が難しい研修については、参加した職員研修後に記録を残すなど情報共有している。
	新規採用者に対して、居宅の仕事や役割を知つてもらう。	新人研修、中途採用者研修の参加	実施回数	年2回	なし	
	介護支援専門員実務研修実習の受け入れ	介護支援専門員実務研修実習生の受け入れ	実施回数	実施回数	なし	